

2023 年度

芸術 科 シラバス
(美術)

山形県立長井高等学校

科目	美術 I	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1 年次、共通
使用教材	教科書「美術1」（光村図書）						

目 標	①美術の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けましょう。 ②創造的な表現を工夫したり、美術のよさや美しさを深く味わったりすることが出来るようになります。 ③生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培いましょう。
-----	---

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	ステップ 2 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じた表現方法で表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	ステップ 1 ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解する。 ・造形的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じた表現方法で表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創作の工夫などについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物	授業への取り組みの様子 作品やレポートなどの提出物

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつきます。

授業の形態、方法

一斉授業、グループ学習など。

担当者より

常に美的関心を持ち、積極的に鑑賞する機会を設けたり、素材・資料を収集したり、生活に生かしたりする姿勢を持つ。 授業の準備をしっかりと(必要な用具、ふさわしい服装、資料材料集め、主題設定や構想を練ってくる)。 制作にあたっては、根気よく、より良いものを追求する姿勢。 授業を休まないことと、提出物の期限の厳守(成績に大きく関わる)。
--

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い		実施時数
4	オリエンテーション スケッチ・資料収集	前期中間Ⅰまで	高校美術の意義と心構え 身近なものを描く スケッチの素材・資料収集	鑑賞を通して、美術のよさを見つけ味わい、興味関心を高め、学ぶ意欲を持つ。 身近にあるものを見つめ直し、よさや美しさを感じ取り表現方法を工夫して表す。 常にスケッチしたり、表現の基となる資料・素材を集める習慣を身に付ける。	前期中間Ⅰまで
5		9	静物デッサン 風景スケッチ 人物スケッチ コラージュ	モチーフの組み方、視点と構図、基本形、鉛筆デッサンの技法、明暗、質感の表現。 空間の広がりや奥行き、光と構図、透視図法、遠近法、四季・時間・天気・心情による見え方の違い、色鉛筆彩色。 自己や他者の内面を深く見つめる、性格・感情・自分にとっての存在・表情・ポーズ・背景・配色によるその人らしさの表現の工夫。 心の中のイメージを基に発想を広げ、想像の世界を表す。形・大きさ・質感の変化、存在し得ない空間の組み合わせ、コラージュの技法を使って超現実的な世界を表す。	／
6	油彩画に親しもう	前期中間Ⅱまで	主題の生成 構想	自分が感じた思い、よさや美しさなどから主体的に主題を生成する。 表現形式の選択と創造的な表現の構想を練る。	前期中間Ⅱまで
7・8			油彩の特性・扱い 表現方法の工夫 下塗り 本塗り 仕上げ塗り	油彩の特性・扱いを理解し、特性を生かした扱いに慣れる。 意図に応じた多様な表現方法を工夫する。 積極的に制作する意欲を持ち、意図的、計画的により良いものを粘り強く追求する姿勢。	
9		前期期末まで	作品の鑑賞	自他の作品のよさや美しさ、制作者の心情や意図による表現の工夫を見つけ味わう。	前期期末まで
		11/28			／
10	人体を通して生き生きとした生命感を表現しよう（塑造による全身像）		人物クロッキー 主題の生成 構想	クロッキー（速描き）方法を理解し、技能を身に付ける。 『生命感』をどの様に捉えて、誰が 何をしているところを どのように表現するか、主体的に主題を生成する。 主題・意図に応じた人体のポーズを工夫し、立体で捉えるための資料を収集する。	
11		後期中間まで	人体デッサン 芯作り	立体で捉えるため、各方向からの人体デッサンをする。 人体の構造・骨格を理解し、芯材を作る。	後期中間まで
		13/41	肉付け	可塑性に優れた粘土を使い、量感、動静、バランスなど立体が持つ特性を理解し表現をする。	／
12			仕上げ 鑑賞	デスクチュアを意識し、人間の存在感、生命感、モデルの人物や感情まで表現するように、意図的計画的に根気強く制作する。 自他の作品のよさを味わう。	
1	VIの展開		自分をブランド化し、デザインする	VIについて考察し、VIの重要性への理解を深める。 生活の中のVIに興味関心を持ち、構成する要素と効果を味わう。 自分のマーク、名前のデザインをする。	
2・3	美術史	年度末まで 19/60	美術と人間、東西の美術、19世紀以降の美術	大きな時代ごとの美術の特徴や様式、代表的な作品・作者、東洋西洋の関わりを理解し、美術文化を愛好する。	年度末まで
	合計時数	60			